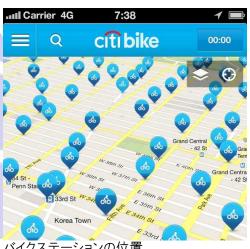
## ニューヨークで待望の自転車シェアプログラム citi bike (シティバイク) がスタート(2)

ニューヨーク事務所

5月 27 日に始まった自転車シェアプログラム、シティバイクについては前回概要をお伝えしました が、今回は、プログラムを導入するに当たって取られた住民参加の手法、自転車をめぐる道路整備 の状況等についてレポートします。

## 興味深い自転車ステーションの設置箇所の決め方

ニューヨーク市の交通局は、自転車ステーションの設置 場所を決めるに当たり、15 のコミュニティボードで頻繁に 会議を開催し、ビジネス・インプルーブメント・ディストリクト (ビジネス改善地区)、土地所有者、市民団体等と 300 回もの会議をしてきました。また、すべての地区でコミュニ ティワークショップ行い、住民たちが意見を出し合い、自 転車ステーション設置に関して約1万件の提言を得るとと もに 6.5 万件の投票を得てきました。これらを加味して、 どこにステーションを設置するかが決められているため、 住民の意向が十分に反映されたものとなっています。住 民参加を重視するプロセスがきちんと取られた上で、物 自転車の配置状況がすぐ分かるアプリ 事が決められて行くのがいかにもニューヨークらしいところ



バイクステーションの位置、

です。また、このようにして決められた自転車ステーションの位置や空き情報は、上のようなスマートフ オンのアプリで簡単に見ることができ、非常に使い勝手の良いものになっています。

## バイクシェアプログラムの安全性

シティバイクの安全性について、疑問視する声もありますが、市当局は高い安全性を主張していま す。理由としては、そもそも速いスピードが出ないように設計されていること、プロの修理工が頻繁にメ ンテナンスを行っていること、ライトやベル等必要な設備が整っており、交通局が各自転車ステーショ ンを見回り、安全確認を行っていることなどです。また、2000 年以降、自転車に乗る人が事故でけ がをするリスクは、75%も減少しています。これは、市が2006年以降、270マイル(約440km)以上 の自転車用レーンを作り、自転車をめぐる道路環境が著しく改善されているからです。バイクレーンは、 現在、公園やグリーンウェイを含み市全体で 700 マイル(約 1126 km)以上となっています。 また、 既 に自転車シェアを行っているロンドンやワシントンで、自前の自転車事故よりバイクシェアの自転車事 故の方が少ないことが実証されています。

ヘルメット着用は義務ではありませんが、シティバイク会員には通常より安い価格でヘルメットを購入

できる特典が用意されています。年間会員になった際に配布されるパンフレットに、割引クーポンが 同封されており、併せて着用が強く勧められています。また、交通局は、自転車乗車講習会などのイベントで、無料でヘルメットを配布しており、2007 年以降、既に 5 万個にも上ります。そして今後もその配布は続けるようです。なお、ニューヨーク市市民サービスセンターの311に電話すれば、どこでヘルメットが配布されるかを教えてもらうことができます。ちなみに、13 歳以下の子供はニューヨーク州の法律でヘルメットの着用が義務付けられています。

## Citi bike の経済効果と順調な滑り出し

新たな公共交通機関を生み出し、ますますその都市としての魅力を高めようとしているニューヨーク市。キャッチフレーズは、「UNLOCK A BIKE. UNLOCK NEW YORK」日本語にすると、「バイクに乗ってニューヨークの扉を開けよう!」といったところでしょうか。バイクシェアにより、自転車修理エやコールセンターのオペレーターなど、200名の新たな雇用も生み出しているといいます。プログラム開始後、1カ月間で5万人の年間会員を獲得し、それ以外に11万3000人を超える利用がありました。レンタル回数は合計約53万回。まずは順調なスタートを切ったといえるシティバイク。今後の展開に引き続き注目したいと思います。



シティバイクを楽しむニューヨーカー (citi bike Facebook ページより)

(鷲岡所長補佐 和歌山県派遣)